
協賛機関挨拶

一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 研究主幹
玉川 淳

第20回ファイザーヘルスリサーチフォーラムの協賛研究機関を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

始めに、これまで多年に亘り保健医療・福祉分野の政策あるいはサービスの開発・応用・評価に資するヘルスリサーチ領域の問題解決型の研究に、多額の研究助成を実施されてこられたファイザーヘルスリサーチ振興財団のご貢献に対して、深く敬意を表する次第です。

併せて、かかる研究助成を受けられた方々による研究成果の発表をコアとして実施されているヘルスリサーチフォーラムが、第20回という、人間で申せば成人式にあたる記念すべきときを、このように盛大かつ充実した内容で開催されるに至ったことに対して、心からお祝いを申し上げる次第です。

皆様ご案内のように、わが国の社会は過去に例のない高齢化の進展、医療技術をはじめとする科学技術の進歩、財政資源の制約といった状況に直面しているところです。このような状況の下で惹起される様々な問題へ対処を図っていくには、広く関係者に適切な情報を示しつつ、社会的な合意を形成していくことが不可欠と考えられるわけです。その際に究極的な拠り所となるのは、保健医療・福祉分野における調査研究の積み重ね、しかも社会への適応や実践をも視野に入れて行われた研究の蓄積に他ならないと考えております。

まさに、これこそがヘルスリサーチ振興の必要性であり、ファイザーヘルスリサーチ振興財団に、こうしたことに関して社会一般からの熱い期待が寄せられる所以であると確信しております。

今回のフォーラムでも協賛をさせていただいております私ども医療経済研究機構は、わが国における社会保険制度・医療経済・医療政策に関する研究を促進するという目的の研究機関で、本年ようやく発足20周年を迎えたところです。ファイザーヘルスリサーチ振興財団が広くヘルスリサーチ領域全体を対象とされているのに対して、当機構ではその中の医療経済・医療政策分野に特化した、かつ規模も小さなものですが、研究助成も行っております。

これまでファイザーヘルスリサーチ振興財団が示されてきた事業の広がりには及ぶものではございませんが、今後ともそれぞれの機関の特色を生かして、相互に連携しながら、総体としてヘルスリサーチ領域の研究を一層振興していくことができればと、望ん

でおります。

また、当機構では医療経済学会との共同編集で「医療経済研究」という専門誌を年に2、3回発行しております。医療経済という分野に特化して編集される雑誌ですが、ファイザーヘルスリサーチ振興財団の助成による研究の成果の公表の場の1つとして活用されることも心から期待をしており、研究者からの積極的なご投稿をお待ちしております。

最後になりましたけれども、本日のヘルスリサーチフォーラムがわが国のヘルスリサーチにおける次の10年さらには20年の基本的な方向性を示すような場になりますことを心から期待して、ご挨拶とさせていただきます。

本日はおめでとうございます。